

2月25日（木）

統神社の境内社である稲荷神社の調査にいきました。このお社の背面に墨書があるのは、以前に紹介しました。その時は「寄附」と「嘉永四年二月初午」だけ読めました。今回、よ～く見てみると「御代官」という文字が読めました。この稲荷神社は、五條代官所に祀られていたとされるものでしたから、こ「御代官」の文字により、代官所にあったものである、という確証になると思いました。さらに、そのことを確実にするためには、その代官が実在したのか、天誅組が襲撃した時より前なのかを確かめなくてはなりません。嘉永4年は1851年、天誅組の変は文久3年（1863年）ですから、クリアです。代官の名前は「内藤忠倫」で、天誅組に斬首された鈴木源内の二代前の代官でした。

これらのことから、内藤忠倫ら数名が、嘉永4年に、このお社を祀ったということが分かります。代官はじめ、手附、手代という役職の付いた人たちの名前が列挙されていることから、代官所内で祀られたお稲荷さんであろうと推測できます。その12年後に天誅組の襲撃により代官所が炎上することになりますが、奇跡的に燃えずに残り、後に統神社に移設されたということになります。

いやあ、歴史の証人なんですね、このお稲荷さんは。